

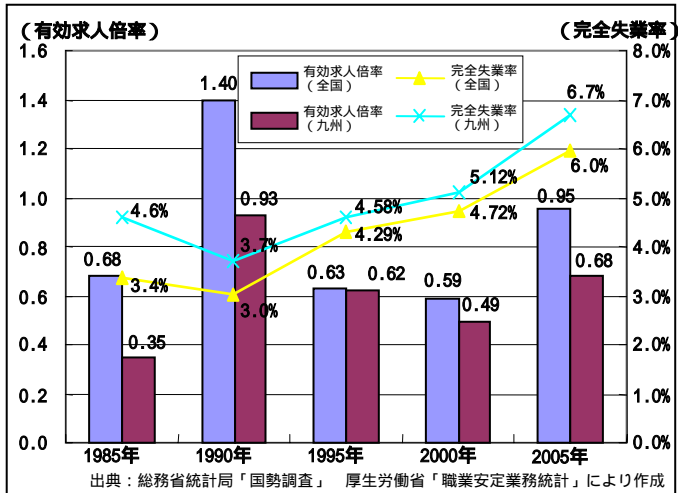
~Kyushu Regional Land Sustainability Plan~  
活力ある経済社会を目指す検討小委員会

論点3 関連資料集  
~ものづくり基盤の強化~

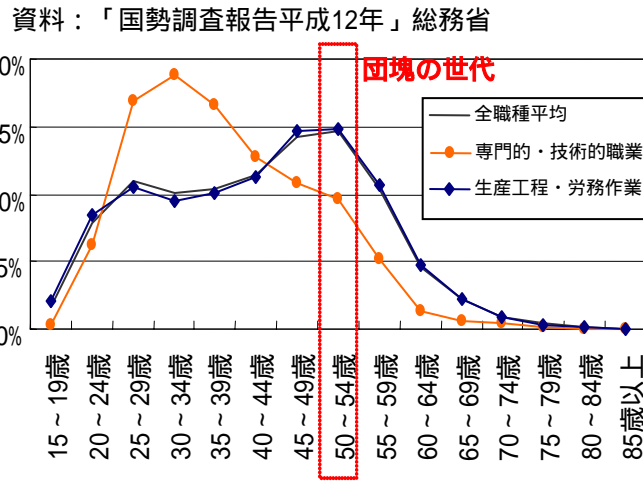
# ものづくりを支える労働者の雇用・労働状況

- ・雇用失業情勢の改善がみられる中、団塊世代の大量退職によっても揺るぐことのない基盤の維持・強化が重要。
- ・量的な労働力不足のほか、質的な懸念（技術・ノウハウの喪失）も同等の懸念事項として、九州内の多くの事業所（とくに中小企業や建設・製造業）において認識されている。
- ・製造業における外国人就業者数は、全国が1.4倍の増加なのに対して、九州は3.1倍の増加となっている。

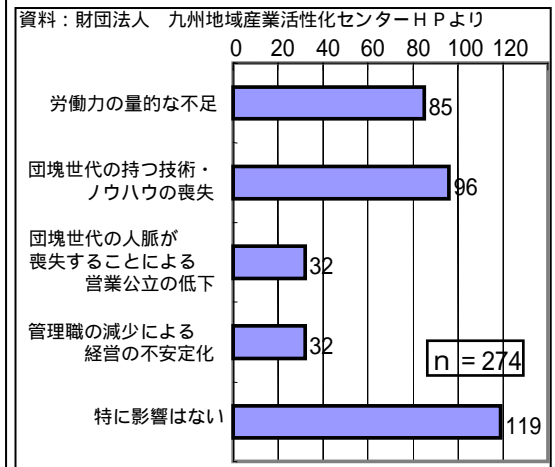
完全失業率と有効求人倍率の傾向



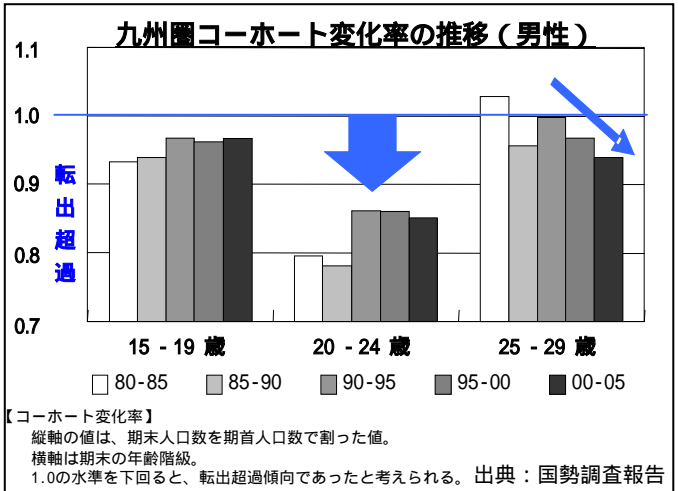
九州圏の職種別就業者年齢構成比の比較（製造業のみ）



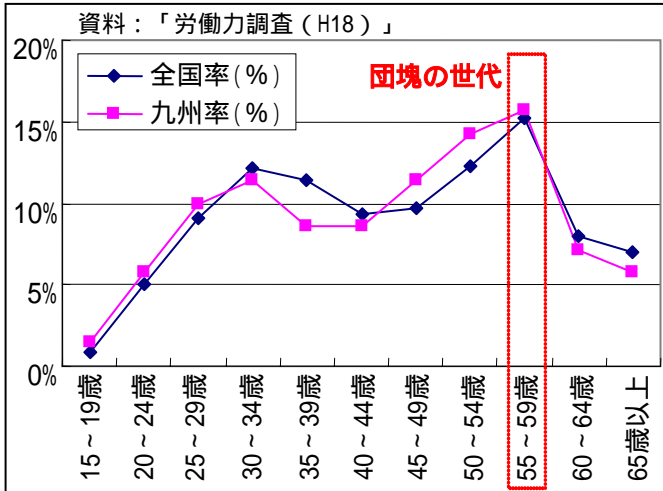
団塊世代の大量退職が九州企業にもたらす影響に関するアンケート調査



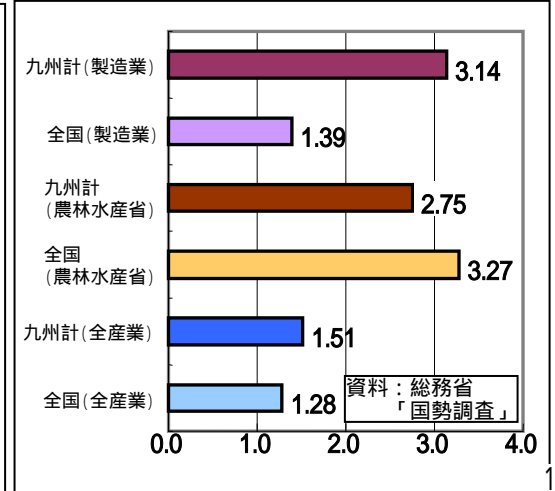
強まる圏外への若年者の転出傾向



九州圏の建設労働者年齢構成比の比較



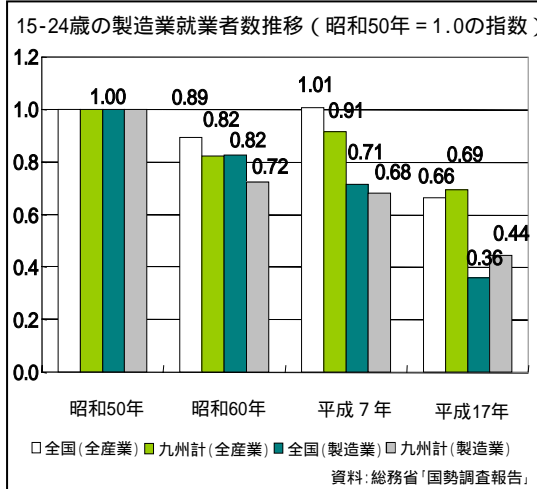
外国人就業者数の伸び率（平成7年～17年）



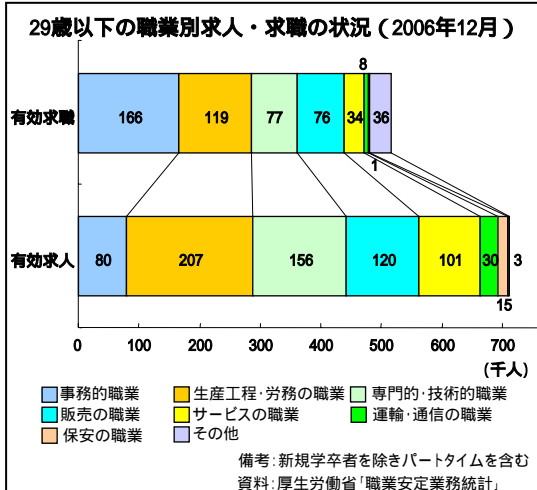
# ものづくりを支える労働者の雇用・労働状況

- ・若年層の就業者数は減少傾向にあり、20年前の半分以下に減少している。
- ・若年者は、知っている職業の範囲が狭く、身近な職業を希望する傾向があるため、求人と求職の職種間ミスマッチがおきている。
- ・造船業においては、技術の伝承を行うことにより造船業の発展・安定的な企業経営を図り、地域経済の発展に寄与することを目的として技術センターを設立している。

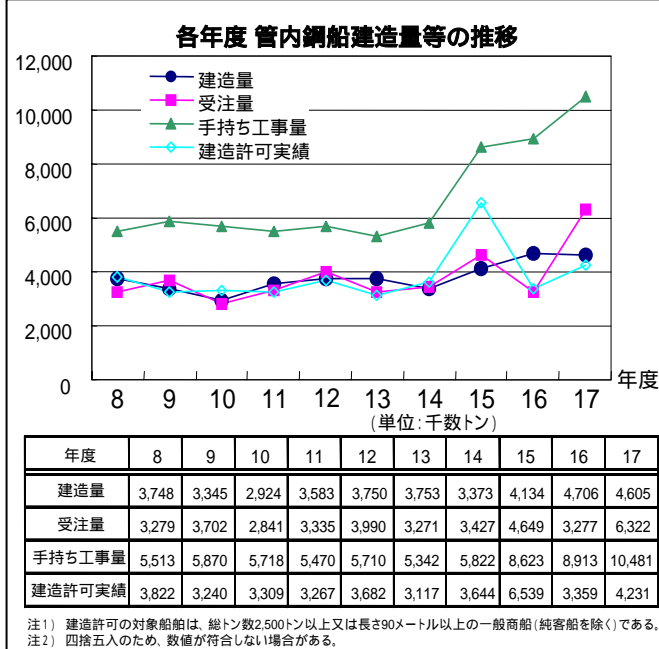
## 若年者の製造業離れ



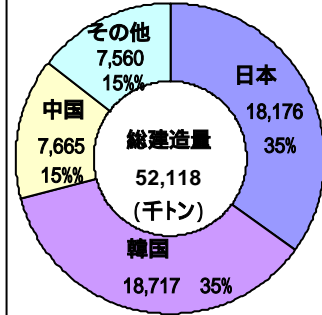
## 若年者の求人と求職の職業間ミスマッチ



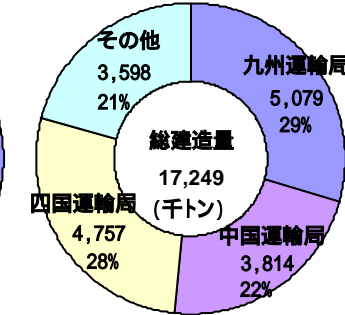
## 建造量・手持ち工事の状況



## 2006年国別建造割合



## 2006年局別新造船建造量



## 造船技術者の育成・確保

### 地域が一体となった基幹産業の技術・技能継承

造船業界では、団塊世代の定年退職者による2007年問題を迎え、次世代人材育成と熟練技能の伝承が大きな課題となってきていますが、特に中小造船所においては個別の対応が困難な状況である。

世界的に優れた高いレベルの造船技能を新人職員や経験の浅い若者に対して教育・実技訓練を行い、造船技術の伝承を行うことにより、造船業の安定的な企業経営を図り、業界の発展及び地域経済の発展に寄与していくことを目的として、造船造機技術センターを設立。

### 大分地域造船技術センター 平成18年4月開設



鉄板の曲げ(ぎょう鉄)

訓練風景

### 長崎地域造船造機技術研修センター

平成19年4月開設



鉄板の曲げ(ぎょう鉄)

溶接訓練風景

資料: 九州運輸局プレス発表資料

## ものづくりを担う若い世代の育成と活躍

- ・圏内には9校の高等専門学校、54校の工業科を持つ高等学校がある。また、工学系の学部を持つ国公立大学や私立大学も圏域内において適度に分散している。次代のものづくり産業を担う人材の育成機会は十分にある。
- ・高等専門学校についても広く全域に立地しており、ものづくりの担い手を育成する機関として期待される。
- ・高校卒業生の就職率を産業別に比較すると、製造業は圏外への就職によって人材が流出傾向である。



学生(校)数	高等専門学校	高校(工業科)
福岡県	3,339人(3校)	12,657人(12校)
佐賀県	-	4,135人(2校)
長崎県	881人(1校)	4,864人(5校)
熊本県	1,787人(1校)	7,078人(7校)
大分県	836人(1校)	4,554人(8校)
宮崎県	853人(1校)	5,239人(6校)
鹿児島県	1,130人(1校)	7,319人(14校)
計	8,826人(9校)	45,846人(54校)

高校卒業生 県外就職率	産業 平均	製造業 (対平均差)	医療・福祉 (対平均差)
福岡県	19.4%	28.7% ( 9.3%)	8.1% (11.3%)
佐賀県	42.5%	48.6% ( 6.1%)	13.9% (28.6%)
長崎県	44.1%	61.0% ( 16.9%)	37.6% ( 6.6%)
熊本県	34.4%	40.5% ( 6.1%)	16.0% (18.4%)
大分県	24.4%	32.9% ( 8.6%)	10.4% (13.9%)
宮崎県	41.2%	46.7% ( 5.5%)	21.4% (19.9%)
鹿児島県	44.6%	56.0% ( 11.5%)	26.8% (17.8%)
計	34.3%	42.9% ( 8.6%)	20.0% (14.3%)

# ものづくりを担う若い世代の育成と活躍

- ・ 将来のものづくりを担う子供達に対して、九州・沖縄の高等専門学校が2003年度より取り組みに関する情報共有や連携を行っている。
- ・ 地域の雇用を支える中小企業やNPO等と地元の学生が交流し、教育と産業の連携を強化することが重要。
- ・ 地元学生のアイデアを活かした商品開発等により、地元企業の活性化も期待される。

## 高等専門学校による 出前講座等の取り組み

(八代工業高等専門学校、佐世保工業高等専門学校)

### 【八代工業高等専門学校】



産業界との連携

「技術セミナー」等の開催

八代工業高等専門学校では、豊富な人材がもつ研究開発や教育技術の力を、地域の産業界や教育界、ならびに地域の公的機関や住民に有効活用してもらうために、地域連携センターを設立。



教育界との連携

「科学技術支援事業」等



地域向けの活動

「公開講座」等の開催

資料：八代工業高等専門学校HP

### 【佐世保工業高等専門学校】



親子おもしろ実験教室



おもしろ化学実験

資料：佐世保工業高等専門学校HP

## 【宮崎県延岡】 体験学習の場となる「高校生の店」が 商店街の空き店舗にオープン



資料)「九州まちづくりBOOK」  
九州経済産業局

広い視野で不足業種・業態を補う。

「小売り」に限らず、  
広範囲に出店希望者を  
募り、学校やNPOとの  
連携も視野に入れる。



平成14年、延岡商業高校流通経済学科からインターンシップへの協力要請を受けたTMOは、市の中心商店街の空き店舗利用施設を借り上げることで学校側へ家賃負担なく提供。

同年9月から12月までの4ヶ月間、週2日営業する高校生の店「和(なごみ)」がオープン。商店街に若々しい活気を呼び込んだ。

仕入れから、接客、販売まですべてを学生が行う「高校生の店」は注目を浴び、マスコミでも報道された結果、翌年からはさらに2校(延岡学園高校、聖心ウルスラ学園高校)から協力要請があり、市の中心商店街には計3店の高校生の店が開店することとなった。

## 【鹿児島県阿久根市】 教育と産業の連携 ～ 高校生の実習活動事例 ～



阿久根農業高校 加工品

道の駅など地元物産館等での販売に支えられていたが、人気が高まるにつれ販路が広がり、今では、電車の車内販売や北九州空港など県外拠点のほか、インターネット販売も行っている。

鹿児島・宮崎両県のコンビニエンスストアにおいては、加世田常潤高校の「黒豚みそおむすび」、阿久根農業高校の「3年A組の豚みそおむすび」、鹿屋農業高校の「黒豚みそおむすび」、が販売されるなど、高校生のアイデアは、企業経営に取り入れられている。



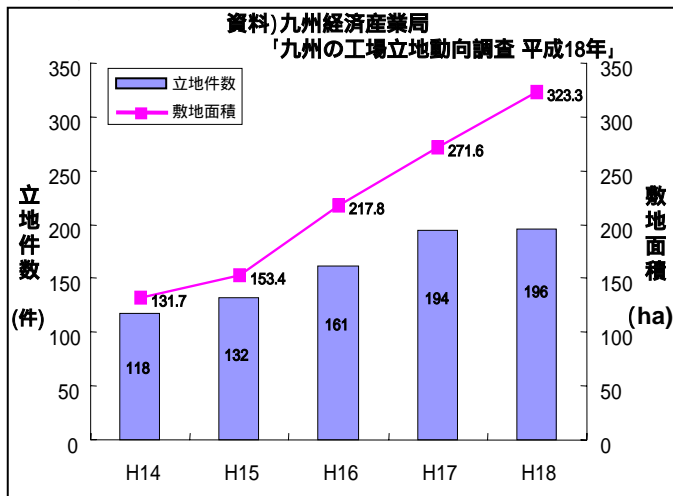
阿久根農業高校 実習風景

資料：九州経済産業局「環」2005秋号

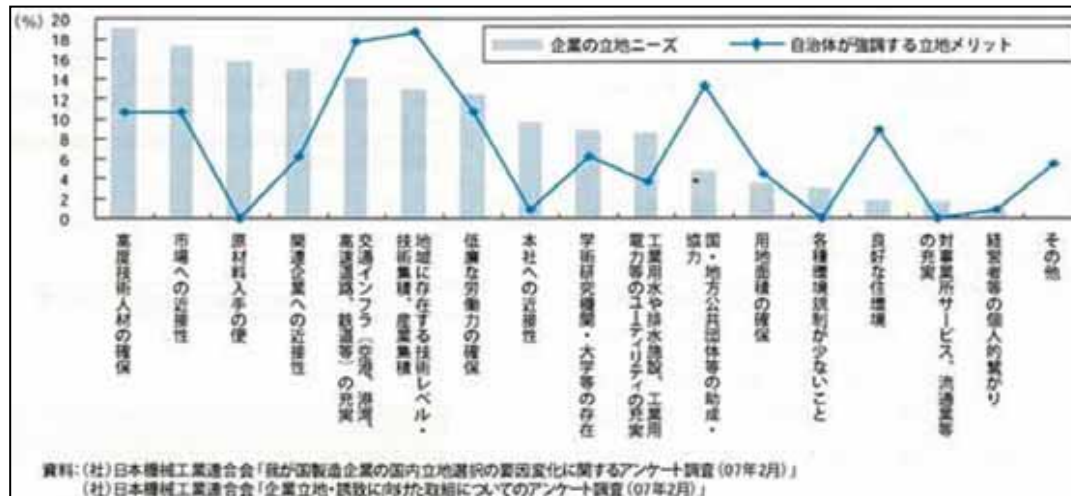
# ものづくり基盤を支える設備投資等の動向

- ・ 工業立地件数は年間190件を超え、その8割弱は新設設備投資である。
- ・ 企業が重視する立地選択要因と地方公共団体が強調する立地メリットには乖離がみられる。
- ・ 産学官連携により、大学や公設試験研究機関等の「知」を活用し、競争力の源泉であるイノベーションの創出が重要。

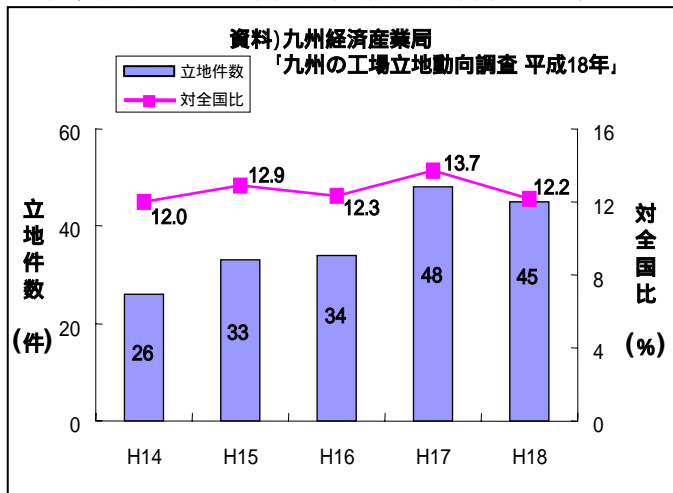
## 九州圏における工場立地の推移



## 企業の立地ニーズと自治体が強調する立地メリットとの比較



## 九州圏における研究開発機能付設予定工場の立地件数



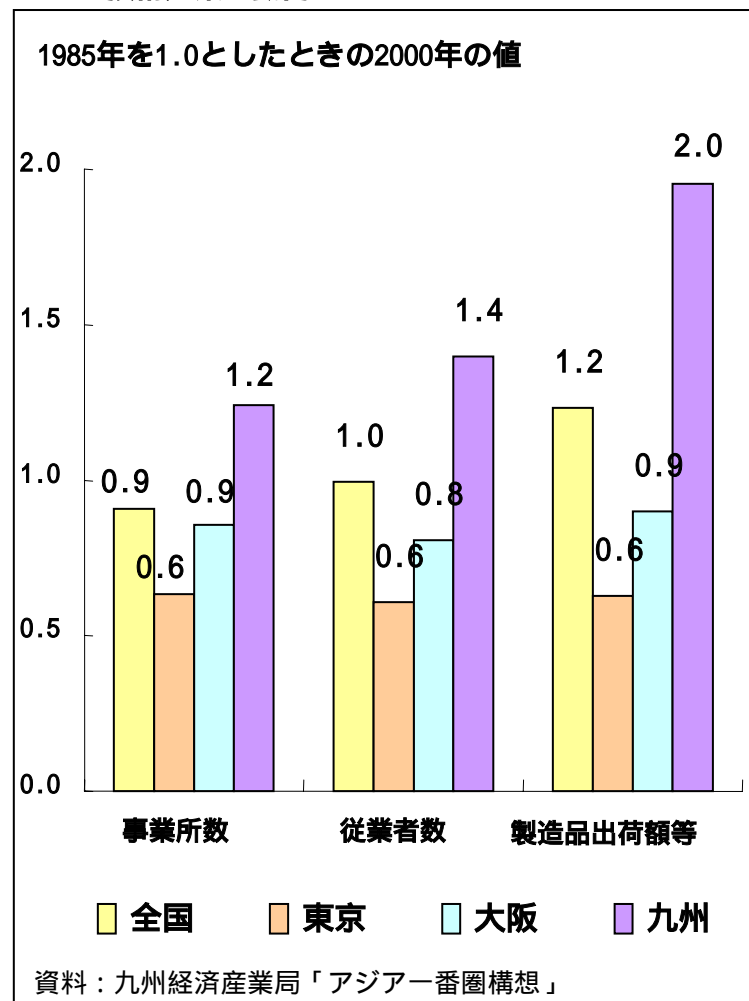
## 主要国立大学・高専の共同研究数の推移



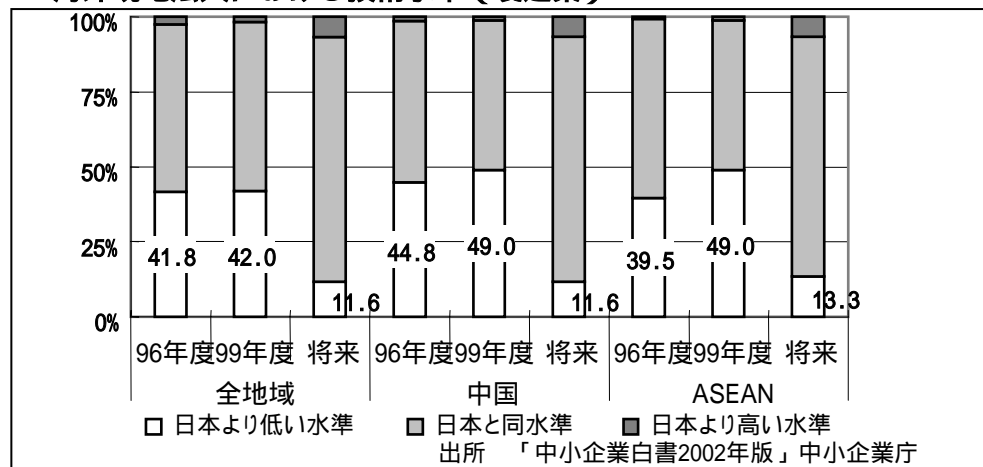
## ものづくり基盤を支える設備投資等の動向

- 加工組立型産業を支える基盤技術産業（鋳物、メッキ、金型等）は、全国で事業所数・従業者数の減少が続く中、九州圏では増加傾向にある。また、出荷額も増加傾向にある。
- 技術水準格差のない汎用的な製品については、アジアとの水平分業の進展により、輸入による代替が進み、圏内同業種の国際競争が激化することが予想される。
- 技術力においてアジア（韓国・中国）との格差は急速に縮小することが危惧されている。

### 基盤技術産業の動向



### 海外現地法人における技術水準（製造業）



### 九州の自動車・半導体下請企業および金型産業に属する中小企業に対するアンケート結果（自社と比較した海外企業の技術力評価）

